

令和元(2019)年度第2回栃木県総合教育会議における教育大綱に係る主な意見まとめ

1 現教育大綱について

- 全体的に非常にバランスのよい体系できていると感じる。
- 全てにおいて網羅されていて、非常にバランスのよいもの。柱が大きく変わることはないという印象がある。ただ、5年10年後、未来を考えると各項目の中には意味合いが変わってくるものがある。

2 次教育大綱について

- 防災教育など住んでいる町の安全教育を地域と学校が一緒にできるとよい。子供が学校で習ったことを家庭で話すことで、大人が地域のことを学ぶ機会にもなる。
- 子供たちは、学校卒業後の長い人生において、変化が相当激しい中、その人生を切り拓く、生き抜いていくためには探究心や創造性を持つことが求められる。次期大綱では、現大綱の基本目標2の施策の方向性4「自分の生き方を考える教育の充実」が中心に来るのではないか。
- 自分の生き方を考えるためには、その学び方、基礎的な学力が非常に重要であり、基本目標1「知・徳・体の調和のとれた発達を促すことによって生涯にわたって学び続ける力を育みます」の内容や、食事の重要性から家庭の問題、その様々な課題に向けての問題解決能力が問われ、基本目標2の国際的な問題の中で他者の多様性に対する理解に触れる必要がある。さらに、人間の幅をつくるという意味で、栃木県の良さも知らせるべきで、文化・スポーツなどの取組を取り上げていき、基本目標3「地域の中で豊かな人間関係を築くことによって互いに育ちあうことのできる絆づくりを進めます」につながっていくのではないか。
- 「心に火をつけられる教師」の採用・育成が必要
- 「不登校などの問題行動等」については、今は不登校は問題行動に含まれなくなっているなど状況は変わってきている。一人ひとりに応じた学びの支援が必要。
- 施策の方向「グローバル人材の育成」は地元のグローバル化として多言語を話す子供たちへの支援の重点化が必要。
- 食育の取組については、今はSDG sが世界の共通言語となっており、「世界の中での自分たち」という位置づけの意識づくりの意味でも、SDG sを明文化していくことで教育の広がりにつながるのではないか。
- 公教育の底上げに個性あふれる学校づくりということを考える必要がある。地方創生と結びつくものであり、魅力ある教育を行う県として人を呼び込むことも重要
- 多様性の重視を。多様性を受け入れることができる人材を育成してほしい。外国にルーツを持つことも、LGBTが排除されない人権教育が必要。
- 手仕事等、何もないところから自分でつくりあげる喜びや、難しさ、創造性というものを学ぶ教育について原点に戻る必要がある。スマホやITを使いこなすだけでなく学校の中で体験をいれてほしい。体験が圧倒的に不足している。